令和５年度　高知市立学校　学校評価書

学校名　　高知商業高等学校

大項目	自己評価				学校関係評価	
	中項目	小項目（評価指標・具体的な取り組み）	達成状況・改善方策	評価	評価	
1・ビジネスマナーの日常化	⑴学力向上の三大基礎作りの徹底	①皆勤・精勤を増やす支援 ②教室の環境整備 ③授業規律スタンダードの徹底と継続	出席性行不良者への支援策を科で考えていく（社マ）その都度声掛け指導や電話連絡、適宜面談ができた（スポ）進路決定者が崩れる傾向があったが、それでも踏ん張れた。（３年）日頃から時間を守る行動ができるよう声掛けが必要である。持ち物の紛失等多かった。日ごろから整理整頓を心がけられるよう掃除も含め見直していきたい。（生徒）生徒の進路閲覧室部員の方々のおかげで常時きれいに保つことができた（進路）適宜声をかけ、図書室利用授業のサポートが適切にできた（図書）気になる生徒はすぐーるや下駄箱で登校を確認し、主任とも密に連携ができた。相談室登校生徒には時間を確認し、行動させることができた（相談）新たな単元に入る時や考査返却時に進路への意識を持たせるように生徒に話をしている（国語）１分前に教室着ができるように日頃から意識して行動している（数学）学校行事中の環境整備が少し手薄であった。１年生の携帯使用が醜い状況である。全てを指導することが物理的にも厳しい（理科）授業前に学習環境を整える指導ができた。配布物の再配布を行わなかった（英語）卒業後の進路に対する意識の向上により２学期より改善傾向。１８歳成人、社会人としての行動を指導していく。（家庭）学年や科、コースによっても、生徒の受け止め方、教室環境にも違いがある。特に３年生において落ち着いた学習環境を作ることに苦慮している（商業）	B	B	皆勤・精勤における取り組みは年々難しくなっている。 関係機関等と相談し、教室以外の環境整備を進めていく必要がある。
	⑵心を鍛える支援	①よい言葉を使う（自他尊重） ②心を込めた分離礼（感謝・感動） ③良き行動は身（服装）を美しくから（躾）	３年生のピアス、パーマが非常に増えた。1，２年生女子の化粧も増えている（ライ）教員の態度・行動・言葉遣いを意識 した。クラス委員と連携し、習慣化することが課題である（社マ）進路決定者が崩れる傾向があったが、それでも踏ん張れた。（３年）ネクタイをしていない、化粧をしているなど自分勝手な理由で守れていない生徒が多い。日頃からマナーについて考えさせたい（生徒）分離礼については、面接指導の際に指導できた。服装については面接指導の際と受験本番前に必ず自分でチェック・改善することを促せた（進路）ステップアップ市商会議にて文化祭の改善案を話し合った。商業を学ぶ生徒が仕入活動や接客活動を通して，ビジネス実践力を身につける仕掛けが必要である。（特活）教員として丁寧な言葉を使用している。分離礼はやり直しを行い、声掛けを続ける。服装が整っていない場合は、声を掛け、整った状態で授業に臨むようにしている。その度合は教員によっても差がある。この偏りを少しでもなくしていく必要がある。（国語）過度な言動はその都度指導している。身だしなみに関して、男子は学ランの中、女子はスカートの中の体操服ジャージ、ひざ掛けに注意が必要である（理科）女子生徒のタイ、化粧などの指導が不十分だった（英語）大きく崩れることはなかったが、TPO を考えた言葉遣いや挨拶、服装指導を継続していく（家庭）	B	B	全体的には生徒のモチベーションが非常に高く、いい状態であるが、冬場の寒い時の上着の着用が徹底されていない状況が見られた。

	⑶安全･安心な教育環境整備	①教室等の戸締り･施錠(自分が最後で当事者と考える指導) ②自ら仕事を見つけて掃除ができる ③清掃後の振り返り支援(思考･判断・表現力) ④交通ルールの厳守が命を守る	行事や実習を通して、社会性を身につける指導の機会があった。また、生徒もそれについて意識する場面となった。丁寧な所作を「知る」ことを行う。専門家によるマナー指導を実施する。(スポ) 高知県警ホームページを参考にして生徒部と連携する(１年) 自転車事故が多く心配である。交通ルール・マナーについては話をしているが、事故予防と事故にあった場合のことについても、全体・学年･クラス別などで細かく話をする機会が必要である。(生徒) 掃除に関してはよくできているが、まだ指示してから動く生徒もいるので、今後、自ら見つけ仕事ができ、生徒同士声掛け合って掃除をすることを目指す(進路) 秋の県内一斉交通安全指導に本校 PTA 役員保護者５名、他校高Ｐ連高知地区高知商業地区保護者３名が参加した。ヘルメット購入助成事業の申請をすみやかに行った。(総務) 市商祭では毎年清掃に関しては、ゴミがあふれるという問題がある。担当生徒に任せることも大切であるが、担当教員が指導にあたる必要がある。地域清掃・大掃除では生徒の中で担当する箇所を超えて清掃する姿が見られた。(特活) 掃除に来ない生徒は担任に連絡した(図書) 補習や７時間目の授業の際には施錠する(国語) チャイム前の移動完了と準備は概ね良好である。片付けや用具の管理については、動きが遅く、管理もまだまだ十分とは言えない(家庭)	C		B	校舎内、体育館のトイレの掃除が不十分であった。 戸締り・施錠に関して、安心安全は最低限のものとして守らなければならない。 通学においては学校・地域・家庭で協力体制が必要である。
２・基礎学力の定着	⑴個別最適化学習(方法・内容)で誰一人取り残すことのない学びを実践する	①ＩＣＴを活用し義務教育段階での学習内容の定着を図る支援 ②生徒の理解状況や能力にあった学びを支援する ③学んだことを活用し、質の高い理解を育成する	保護者面談はほぼ全員面談する(特進) アプリの活用方法について、学んだ知識を活用する方法について取り組む必要がある(社マ) 面談・補習は積極的に実施する(情マ) 提出物の取り組みが苦手な生徒に対して、より最適な指導を教員全員で行う必要がある。直接何度も提出の確認作業が必要である(スポ) 検定期間中、自学自習ができる環境を整える(１年) ICT 活用は日常になっている(３年) 国公立講座、個別指導など ICT 活用で課題提出、講座レジメ、講演資料、連絡ができた(進路) 体育祭競技で教員の役割分担について毎年、不明な点が出ている。生徒役員会前に教員の役割分担を明確にする日を設ける必要がある。タブレットを用いたプレゼンテーションが増えてきている。補助としての活用を促す。原則は持たずに発表。(特活) ３年生を対象に、３学期早々タブレットの検査を実施する(情報) 相談室登校の生徒には、教科担当者を繋ぎ、各教科の課題や提出物の確認にタブレットを有効活用させた(相談) 各単元の最初には NHK for school を活用している(国語) 授業方法などを共有できるようにする(地公) 小テストや副教材などを利用して、生徒の理解状況に合わせて支援している(数学) ICT 活用によるポートフォリオからシュミレーション活用など、授業支援においては十分に ICT 機器の運用ができている(理科) 器械体操に限らず、保健の授業で活用できた(保体) ICT の活発な活用、パフォーマンステストの適切な評価と指導への反映を行うことができた(英語) ２、３年生ともに実技動画を活用し、自身の活動内容の把握に役立てることができた(家庭) ICT やアプリを積極的に活用し、一人ひとりに対応した指導を継続する(商業)	B		B	タブレットの使用範囲などセキュリティーも含めて常に見直しが必要である。 タブレットは必要なツールであることは確かであるが、情報モラルには注意が必要である。 様々な手段で家庭や生徒と繋がりを作っている。
	⑵学習行動及び家庭学習を促す支援	①授業課題の提示(やる生徒を増やす) ②検定合格のための早めの学習計	朝読時間で日本経済新聞などの記事を読み、自分の考えや意見を書くことに取り組んだ(社マ) 各教科担当と連携を図り、検定学習	B		B	コロナの影響で仲間と十分に交流や学習

		画や課題の提示 ③長期休業中の課題提示 ④３年生への卒業課題の提示 ⑤全員が全商検定１級を取得する支援 ⑥読解力を高める朝読の推進	を含めた課題提示を実施した(情マ) 夢ナビ動画はタブレットに規制がかかり登録ができないので携帯電話で登録した。情報班に改善を依頼する。(１年) ウェブ配信を活用して行うことが出来ている。(教務)卒業課題を必死に取り組んでいた。(３年) ２，３年生に対して、長期休業中の課題（夏は２，３年に夢ナビ動画、冬は２年に志望理由テキスト）を出すことができた。全商１級の指導については、全商特別推薦の告知をより広げていくように計画していく。(進路) 新聞、進路本、小論文対策本の利用が増え、適切なレファレンスサービスの提供も行えた。季節やテーマに応じた特設コーナーも適宜設けることができた(図書) 夏季休業中に Google Workspace に関する学習会を実施した。卒業生のアカウントの削除や、教員のアカウントを校務支援システムに登録する作業が必要である。(情報) 相談室での過ごし方のルールを確認することで、生徒自らが相談室での過ごし方を考え、行動させることができた(相談) 漢字検定に関しては、２学期の反省を踏まえ、また、進路を意識させる声掛けを行ったため、２年生の受験生が増加した(国語) 夏の問題集を実施し、提出物への評価点を加味した。また、追い詰め指導もした。数学検定は１月に案内をかけたが実施には至らなかった。(数学) 課題研究の調査やポスター作成などをルーブリック評価など活用することで、活動の到達段階評価などを行った。次年度以降も活動における目的・成果物をさらに明確化し、課題評価と置き換えていきたい。(理科) 授業、補習、ロングホームにおいて実用英語検定、全商英語検定対策を行った。(英語) ３年生の卒業課題は単位認定の条件とし、全員提出するよう指導した(家庭) 検定試験合格に向け、各担当における課題の提示、補習の実施、検定試験欠席生徒の補試などを行うことができた。課題研究発表会に向けても、各科・コースにおいて、発表準備、発表始動、本番等を行うことができた。(商業)				ができていないので、学ぶ必要性や知る楽しさを下級生と上級生が一緒に学べる機会が必要である。 柔らかい問題提起の仕方で自主的にテーマを探す力つけている生徒が多い。
３・市商マネジメント力の育成	⑴コミュニケーション力を育成する指導	①社会と協働する力 ②チームで働く力 ③グループワーク力 ④討論する力	概ねできた、継続実施（特進・２年団）：３年生ビジネスプラン立案、コースをシャッフルして発表会実施２年生１次審査、最終審査に分けて実施。生徒にも新しい取り組みの意図が理解されて、新しいスタートを切ることができた（ライ）朝、帰りのホームルーム、授業において指導した。(3)(4)(5)について、特に各教科で特性を活かした指導を実施していただいた。次年度以降、科の目指す生徒像に向かって、各教科で計画実施していただいたことを情報収集し共有することを計画（社マネ）２年ビーチサンダルデザイン、千葉アクアマリンマラソンメダルデザイン公募作品。３年塚ノ原保育園プロジェクションマッピング、秦地区こども食堂サポート（秦ふれあいセンター協働）実施。高知大次世代地域創造センターVR 関連研修。小中学校 ICT 出前講座実施（西部中・伊野中・泉野小）佐賀県伊万里実業高校探求担当者へプレゼン・公開授業実施。大豊町穴内地区地域活性化事業実施（情マネ）行事や実習・学期末のプレゼン発表を実施し力を高める機会を創出。課題発見・解決のサイクルの継続が課題（スポマネ）講演会によるメモする力、要約できる力を指導実施（１年団）多くのことは失敗から学んだ学年（３年団）グループワークは能動的かつ団結力アップにつながり合格にもつながった。工科大受験について改善	B		B	各行事において力を発揮できている。
	⑵課題発見･課題解決力を育成する指導	①自主的に学ぶ力 ②調べる力 ③ノートを作る力 ④講義理解力 ⑤論理的思考力・分析力		B		B	改善の余地はあるが、考えて発表する力がついている。
	⑶プレゼンテーション力を育成する指導	①発表力・説明力 ②文書力(論述・論理的表現力) ③レポート作成力 ④記録・要約できる力		B		A	高校卒業時には確実に力がついている。

			して対策する。ロイロノートを活用した課題提出はよくできた（進路） ステップアップ市商会議や卒業式において，自らの学びや考えを自己の言葉で語る生徒の姿が感動を生んだ一方で、決められた役割をこなす、決まったことを遂行する、準備してきたことを着実に行うといった計画どおりに物事をすすめる「遂行型生徒」が多い。今後はその状況に応じて自己の言動を変化させ、その場で自己の考えや学びを伝えることができる「変革型生徒」を育成する必要がある（特活）図書館報を生徒がメインとなって入力・校正・発行することができた。年々ミスも減っており段取りよく作業をすることができている（図書）Classroom を利用したアンケートは定着してきた（情報）生徒保健委員会では部長を中心に生徒が取り組みたい内容を決定し実行していくという提案が徐々に増えている。委員会活動は自分たちで運営をしていく会である認識をさらに高めていく（教育相談）１年生・２年生の国語表現で討論を実施。同じ準備時間を取ったが圧倒的に２年生がよく論理的に伝えることができていた。１年間の積み重ねができており他教科との関係も大きく影響している。小論文指導では２年生から時間を使い、書かせる必要性を実感した（国）検討する時間が必要。何をするか焦点化させる必要がある（地歴公民）ルーズリーフでの提出も認めた。特に問題ないので今後も継続。提出物が不備な生徒には粘り強く対応できた（数） 生徒自身が疑問を持ち探究するための仕掛け作りを行うことができた。年間を通して「活動」の時間確保が課題。ICT 機器を用いたシミュレーションも現状視野が狭いため手立てが必要。途中式の記述や考え方の表現、ICT を適宜活用などを今後も継続（理）種目により差が出ているので工夫していく（保体）話す活動を中心とした授業展開、パフォーマンステストの実施、評価など４技能において生徒の力や意欲を高める指導を実施。実力テストや検定の取得に結び付けることができた（英）概ね実施。今後さらに内容の質を上げ深めていくため、評価の仕方を見直し、振り返りの気づきや改善点をブラッシュアップさせる指導までを一連の活動の流れとして取り組むように指導（家庭）GW や PW を積極的に行い、校外学習、販売学習、商品開発、検定学習、学部講師の方の授業など、様々な学習に挑戦できた。修学旅行における学習も地域や国際と結びつき、また、地域と連携したイベントの開催や販売実習も実施している。課題研究の成果報告なども、各科コースで PP を利用して工夫を凝らした発表ができた。今後も地域や企業、大学とつながりながら新たな学習に挑戦する（商業）			
	⑷講義理解力を育成する指導	①メモする力 ②論述する力		B	B	科・コースの特徴を活かしながら進学・就職にも役立てることができている。
	⑸ＩＣＴ･英語活用力を育成する指導	①日常的な英語活用力・表現力 ②タブレット活用力		B	B	課題研究発表会等で力を発揮できている。
	⑹察する力を育成する指導	①企画できる力 ②説明できる力 ③行動できる力 ④言われなくてもできる力		B	B	課題研究発表会等で力を発揮できている。
	⑺失敗から学ぶ力を育成する指導	①創造する力 ②挑戦する		B	B	まだまだ失敗する経験がすくない。
	⑻教え方改革	①教えるからコーディネートへ ②生徒が主体となる授業作りの実践	実施継続（特進・情マネ）生徒の服装の乱れから、教育相談に関することまで、幅広く情報共有できた（ライ）得た知識をグループワークで活用、自分の考えを深めることに取り組んだ。知識を活用することにフォーカスしより力を身に付けられる働きかけを計画したい。外部の方とつながり、活動、講座演習を実施（社マネ）メンタルトレーニング・パラリンピック銀メダリストの講演実施（スポマネ）４月オリエンテーションの説明を継続実施（１年団）継続指導。学校生活と部活動がリンクし相乗効果が見られるように部活動顧問を中心に継続した指導が必要（２年団）課題研究発表会で成果が出た（３年団）ルーブリック評価の検討を春休みに行う。生徒が能動的に進路学習に取り組むよう実施（進路） PTA 便りを通して生徒の取り組みの成果を周	B	B	自己評価を尊重する。
	⑼評価改革	①ルーブリック評価 ②観点別評価		B	B	自己評価を尊重する。

			知。PTA 便りの充実のため他校の資料を揃えて保護者との協議検討。懸垂幕及び生徒玄関前パネルに掲示するベストなタイミングを検討。出費を抑える特に玄関前パネルは１枚１枚が高額なため、長期的に見てプリンター機器を購入した方がいい。懸垂幕については現在３色を使用して見栄えと耐久性のいいものにしているが、通行人の目にも入るため質のいいもので継続（総務） 学校行事について生徒が主体となって活動している。行動に対して評価をすることは重要であるが、教員の役割は①活動の大枠を決めること②導入で目的目標を確認すること③事後に適切な評価を与えることの３点である、次年度も継続して活動を行う（特活）・「お～いお茶」への俳句応募。年間を通してルーブリック評価を用い自己評価を実施した。生徒自身が客観的に自分を見られるようになったこと、最初に提示をすることで、何を努力して取り組むべきか共有できたことが良かった（国）ルーブルックを開発する時間を確保する（地歴公民）研究授業で各先生方の課題を見い出し良さを伸長させながら、生徒観を捉えて工夫した授業が展開できた（数）繋がりのある理論が必要となる科目が増え、生徒間での意見共有、教え合い、伝え合いの場を増やしている。ペア・グループワーク、ルーブリックによる評価、課題探究活動など、生徒の思考を広げる活動、授業参加を積極的にできる活動を増やすことができた（理）できるようになってきたが、まだ不十分であるためもっと積極的にできるようにしていく（保体）パフォーマンステストの内容に応じた評価したい内容を適切な規準において評価した（英）パフォーマンス評価については、思考や活動の途中経過がみえる課題提示の仕方や、ルーブリックの公平性や客観性を再度見直す（家庭）新たな授業形態へ挑戦、円滑な観点別評価の実施、地域や企業とつながりながら学習に挑戦した。ルーブリック評価をもっと多くの科目で積極的に取り入れ、観点別評価等につなげていきたい（商業）				
	⑽生徒支援改革	①自ら考え行動できる主体性を育む指導 ②オープンクエスチョンの活用		B		B	第３の制服の導入をすすめることができた。
	⑾部活動改革	①私生活から一流 ②指導改善 ③コーチング		B		B	改善の余地はまだまだあるが、生徒との対話重視の傾向に改善されてきた。
4．学びに向かう力の育成	⑴高知や社会に貢献する力を育成する指導	①学校における学びを、実社会の課題と結び付けて理解できる力の育成 ②学校における学びを、グローバルな視点を持って、社会や地域の活性化を考え企画できる共創力の育成 ③積極的に企業・大学・行政・社会・地域の方々と連携・協働し行動できる力の育成	未実施、次年度に見送り（特進）アントレ教育を外部企業の力を借りて終えることができた。課題については次年度検討（ライ）得た知識を活用し体験を通して学習が更に深まるよう指導する。授業担当者との連携を図り、身に着けたい力を共有し、授業を担当する教職員と取り組む（社マネ）秦ふれあいセンターとの協働事業・各小中学校での訪問授業・行政（県・大豊町）と協働 ・高知大次世代地域創造センター特任教授との連携（VR）（情マネ）実習を通して、社会と接点を持ち、学校での学びを実社会と結びつけた。次年度外部との体験イベント交流を実施・計画（スポマネ）市商祭で実施できるように継続実施（１年団）担当部署と協力し実施（２年団）教員間で生徒情報の共有ができた。朝のあいさつ運動は継続実施（生徒指導支援）志望理由書のテキスト購入は長期休業中の課題や LH 等で活用できた。次年度発展させる。志望理由書作成のノウハウを生徒・教職員に広めることも検討。国公立講座での取材については、課題設定⇒探究のイメージで発展させる（進路）年間を通して活動を継続した。改善点は、活動によりどのような力を発揮したいのか/身につけたいのか、どうなれば達成なのかといった目的目標だけでなく。生徒の達成感へのサポートが必要である。新聞記事紹介を年間を通じて毎日行った。図書館を利用する生徒以外にも周知できるよう、クラスルーム等を利用して利用促進を計画する（図書）新カリキュラムとして、２年生の国語表現でも小論文の添削を授業	A		A	すぐに社会へ出て即戦力となるような力をつける場面がたくさんあり、生徒がどんどん成長できている。 若い目で社会を評価し、自分がどのように動いていくか考えることができている。

			と定期考査で実施した。小論文に早めにある程度の時間をかけて取り組ませることが３年生の進路指導で優位になると感じた（国）継続的にに模擬選挙を行う（地歴公民）導入内容として社会や日常に繋がる取り組みを実施。「科学と人間生活」においては科学的視点からの課題を発見・解決へと向かわせる思考を行った。課題研究では既存の実験や、結果がわかりやすいものなどが取り上げられることが多いため、次年度以降、社・情では商品開発に切り替えるなど「新たな発想」を促すような取り組みに繋げていく（理）２年生のレポートについては、必ず高知県のこととリンクすることを明記した（保体）生徒に案内参加への促しを引き続き実施（英）卒業課題において SDGs と生活の課題の解決に向けて、自分ができることを発表し今後の行動につなげることができた。これらを２年次より考えさせ、地域活動への自主参加につながるよう指導（家庭）次年度も地域や企業とつながりながら新たな学習に挑戦する（商業）				
	⑵高いレベルの進路を目指す生徒を育成する指導	①国公立大学受験者合格者を増やす指導 ②共通テスト対策指導 ③動機づけ（講演会・オリエンテーション等） ④面接・文書作成支援体制の構築 ⑤卒業生や外部指導者の積極的活用 ⑥縦割り学習の実施 ⑦公務員講座の実施	実施継続（特進）進路決定までが遅く、自走する力のない生徒の国公立大学や、上位大学への進学希望者が増え志願理由書等が進んでいない現状がある（ライ） 実施継続、国公立合格者は社会マネジメント科史上最多数。生徒の希望進路を実現のため面接指導や志願理由書の作成に取り組む必要がある。マネジメント基礎と２年、３年で学習することの繋がりを意識させ、他者との比較をとおして自分自身の学習到達度を図り確認することができた（社マネ）・３年主任・学科担当教員・進路指導部のサポートにより国公立大学進学者７名。進路未決定者無（情マネ）改善点はスポ科と部活動顧問との関わり、繋がりの開発と強化（スポマネ）進路講演会、ようこそ先輩事業、キャリアパスポート作成を実施。ようこそ先輩事業は学習意欲向上のため定期考査前に実施する（１年団）進路指導部の資料提供や進路ロングホームの取り組みなどにより概ね達成（２年団）過去最高の成果が出た（３年団）他校とつながるよう次年度オンライン実施など方法を検討。公務員ついては、これまでの連携講座で成果が出たのか受講生はほぼ合格したが、合格者が多かったため、公務員学院から辞退の申し出があった。公務員対策を検討する。志望理由書指導の教員割り振りについては一部の教員負担とならないようにできたが、割り振りの時期と生徒の後追い指導が課題。国公立講座生徒の推薦選抜後のフォローについては共通テスト指導と併せて検討。特進以外の模試案内については１・２年生に模試募集案内をする（進路）すぐーる等で各種奨学金、国の教育ローン、入寮案内などの情報を定期的に配信。各担当が奨学金等の各種団体に問い合わせてもらうもの等を明確にして的確に質問等に対応することができた。PTA 便りは進路状況や奨学金の情報を提供するなど新たな情報発信を行っていきたい（総務）総合型選抜の面接やプレゼンテーション等において特別活動での学びを伝えることができている（特活）予算を確保。限られた予算を活用するため、新聞等から本の情報収集を行い、良書を厳選する。入試対策としてデータ本などのアップデートを図る（図書）進路部からの進路に関する情報を適切に提供した（教育相談）今年度も３年生の特進コースで実施。その後は、他コースの生徒も共通テスト対策・二次対策に特進コースとともに参加。担当教員がつき指導を行うことができた（国）特に新課程の科目では思考判断の問題を定期考査で多く出題した。次年度継続（地歴公民）概ね良好。仮卒中に進路決定者	A		A	進路実現に向けてよく頑張っている。国公立大学合格者は過去最高の４９名となっている。一般試験の結果によってまだ合格者が増える可能性がある。 それぞれの進路をお互いが尊重して応援できる生徒を育てられている。

			への数学の授業実施（数）個別対応での補習を実施。国立大学農学部の合格者も出て、個別対応での成果は上がったと考えられる。共通テスト直前の冬季休業中補習では例年に比べ理科基礎補習の対策が十分にとれていない。次年度は基礎無し選択（理工学部志望）が既にでてきているため、個別対応を充実化する。先に上げた農学部進学者は夏季休業からの指導もあって理科基礎２科目の共通テスト得点率も７割強と一般的に国公立大学で戦える点数も取れている。大学入試を意識した問題設定ができるか今後も検討していく（理）部活動内でも呼びかけた（保体）英語での口頭試問、面接対策、指導を長期間取り組み、合格することができた（英）２年生で論述のネタ作りに取り組んだ。テスト後授業では実施できたクラスとできなかったクラスができた。各単元の実施途中の課題としても実施していく（家庭）授業や体験学習において様々な情報の収集や提供を行い、生徒の進路活動に活かすことができた。次年度スタートする共通テストの教科「情報」に向け、特進コース１年生での研究が進んだ。来年度、問題集等を取り入れながら対策を行う（商業）				
	⑶高いレベルの資格検定を目指す生徒を育成する指導	①全商３冠・日商簿記２級・基本情報・ＩＴパスポート・日英検２級・漢検・時事能力検定・数検等、会計サポートシステムの導入で伸ばす指導 ②特進（東大合格）ライ（日商簿記１級）社マネ（日英検１級）情マネ（ＳＴＥＡＭ）スポマ（アスリート集団）実現のための取り組み Houl－Ａプロジェクト	実施継続（特進）日商簿記１級に取り組んでいる生徒２年１名（ライ）教科で計画を立て実施。次年度も継続（社マネ）高知大学次世代地域創造センターより VR ゴーグル活用によるゲームアプリ開発実施、次年度継続（情マネ）外部講師専門家による授業を提供した（スポマネ）年間を通して日商簿記検定に向けての講演会実施、次年度継続（１年団）各教科や担当部署と連携し概ね達成（２年団）各部署で成果が出ている（３年団）年間行事への各種の反映と調整を行った。行事精選の必要性を感じている（教務）スポーツ推薦で進学をする生徒が少なかった。筑波大も受験予定生徒がいたが、総合型で静岡大に合格したので受験に至らなかった（進路）スケジュールについては科コース長との連携を継続（特活）あと数名の問題集回収を急ぐ。漢検の問題集の適切な貸出が年間を通じて行えた（図書）夏季休業中から特進コースが、共通テスト対策から、他コースの一部生徒も参加（国）1 年生で実用英語検定２級合格（英）連携した授業計画や補習を実施。進路指導、検定指導等、次年度も計画的に継続して実施（商業）	B		B	定期テスト同様、検定習慣があり、目標に向かって頑張れる雰囲気ができている。
	⑷文化活動・行事・講演会等の質的向上をめざす	①市商マネジメントの視点を持った生徒の主体的な参加による運営 ②文化部・授業での積極的な各種大会の参加やコンクールへの応募、技術競技会全種目制覇	実施継続（特進）次年度文化祭でのコースの取り組みを検討中（ライ）量よりも質的な向上をめざす指導を継続実施する（社マネ）高知スポーツサミットでの校外発表の継続実施。情報発信の改善、役割分担とより簡素な手続きが必要（スポマネ）年間を通して各講演会は生徒主体の運営ができた。次年度も継続実施（１年団）会の運営や担当部署との連携は概ね実施（２年団） 各部署で成果が出ている（３年団）進路に関するイベント・応募等は一覧表を作成し、生徒・教職員への周知を計画（進路）年間目標応募数 40 を達成。担当者と連携し学期ごとの応募数を早い段階で共有できる環境を整える（特活）ビブリオバトルの観戦者を増やすように積極的に呼びかけをする。また図書委員の役割分担を考えている。（図書）活動場面では自分たちで役割分担をしながら進めることができた。さらに各自が自分の思いを伝えれるように話し合いの場面を増やしていきたい（教育相談）都度生徒連絡やホームでの連絡を行っている（理）全学年体育委員を中心に、計画・練習・本番の運営ができた（保体）牛乳料理コンクール入賞・情報発信や参加呼びかけを継続実施（家庭）体験入学・課題研究発表会など生徒が主体的に行動	B		B	発表能力が向上している。 技術競技会全種目制覇を達成することができた。 市商そのものの底力を文化祭で発揮している。

			できた。ライセンスコース２年生におけるビジネスプランコンテストも開催。次年度も行事や発表会に向け継続して指導（商業）				
５．各部署組織運営計画	⑴各部署の組織運営･組織活動の活性化	①計画的かつ主体的な組織運営・組織活動の実施 ②明確な役割分担と責任体制の確立 ③報連相の徹底 ④情報の共有化	科会の時間縮小実施、情マネ担当の商業科教員プラス２名を次年度に、現在の人数では手が回らない（情マ）情報共有はできている（多数）改善力・振り返りを文字で残す（スポ）共通フォルダを行事の振り返り等に有効活用（１年）学年団は非常にまとまりよくいい方向に進めた（３年）校則の見直しを行い、全教職員で共有（生徒）①生徒・保護者への情報発信②進路指導部教員が活躍する体制づくり③若年教員にも部署で責任者（進路）奨学金・部活動振興会会計等の業務の確実な運営ができた（総務）次年度は相談室担当者会を年間計画に入れる（教育相談）評価にあたり提出物評価の仕方を再度確認（国語）デジタル採点をもっと共有（地歴公民）共通フォルダの整理をする（数学）一学期同様に、教科会の質は非常に高く、毎度よりよい理科教育のために討論が行われている（理科）各科コースの授業担当者間で適宜ホウレンソウを行い、ミスや抜かりがないよう努めることができた（外国語）生徒のふりかえりの共有を行い授業改善に役立てる（家庭）文科省事業の学校方針を明確にし、学校全体で取り組む、次年度新全商 WEB がスタート、商業科で情報共有しながら、変化に対応（商業）	B		B	自己評価を尊重する。
６・重点学校組織運営計画	⑴情報管理（組織文化）	①市商ブランド化戦略を推進する・・ あらゆる広報にこれを位置づけ、掲示物やオリエンテーション・集会等による積極的な情報発信を行い、ロゴや 標語を最大限に活用する ②キャリアパスポート（Mbook）の体系的な運用を各学年において実施する ③Ｇoogle Workspace の全校的運用を一層推進し、教材共有（クラウド活用）、諸会議におけるﾍﾟｰﾊﾟﾚｽ化、テスト採点の電子化を推進し、節電と合わせ経費削減を図る ④積極的な広報活動を組織的に行う・・管理職・主幹教諭をリーダーとして情報班と連携し、ＨＰの充実、メディア発信を行う。オリジナリティのある活動を地域社会と連携して発信し、社会と繋がる学校とする ⑤卒業 4 年後 の生徒の進路調査を行い、 高知への 貢献度を分析する	①学科コース（授業等）や部活動・生徒会による特徴的な活動が、市商ブランドの確立につながった。取組を情報発信する力をもっと高めなくていけない。 ②進路指導と学年団で連携した M-book 等を活用したキャリアパスポートの活用が進行した。 ③令和６年度から BYOD 方式と貸与方式の併用となる運用について、職員会議で方向性を確認できた。運用面を推進する教職員組織が必要か。 ④中学生や保護者に知ってほしい情報を迅速に発信する仕組みが必要で発信すべき ⑤就職してますか、進学しています、県内ですか、県外ですか。という問いを４年後に毎年行いデータ収集する方法を検討し導入する。	B		B	自己評価を尊重する。
	⑵人材開発 （組織改革）	①授業実践ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ（M型W型MW型Q型）の研究を深め、ＩＣＴの活用を促進する ②研究授業の質を向上させる・・タブレットで授業録画などＩＣＴ活用による事後検討会を充実 ③自己課題研究を奨励し、専門分野の研究やスタッフ組織による授業研究など、教員の個別最適化を促進する ④国公立講座の質的向上（オリジナルテキストの活用、imput 指導の重要性等）を図り、共通テスト研究体制を再構築する	①②生徒の思考を深める発問や生徒を主体的にする授業展開等、創意工夫ある研究授業が展開された。研究授業テーマ「生徒が思考を深め、ICT の活用を促進する」につながる成果である。しかし、社会変化のスピードははやく、継続して新しいことに挑戦する力も求められている。 ③国語科による小論文研修会の自主開催（８月）が定着、進路指導部からも教科指導に活用できる自主企画研修が企画されるなど、教員の主体性の高まりを感じる。 ④国公立講座に加え、先生方の奮闘による手厚い進路指導が成果につながる一つの良因と考える。	B		B	自己評価を尊重する。

		⑤初任者・年次・期限付・時間講師等の指導力向上‥県下に誇れる充実した研修を行う ⑥職員のタブレットの活用力・活用率の向上を図る‥自主的な研修会の開催、ホーム通信等の情報発信を促進する	⑤初任研の授業研・一般研修、若年研の公開授業を計画的に実施でき、創意工夫ある授業が公開された。 ⑤Classroomによる職員会議のペーパーレス化やアンケートの実施や、生徒にはclassroom、保護者にはすぐーるを活用した情報発信が定着した。				
	(3)改善力のある組織体制	①危機管理３大原則を徹底する ❶不登校・いじめ等に関する情報収集 ❷報連相の徹底 ❸適切な初期対応 ②生徒の範となる挨拶で、朝は元気と希望の湧く職朝を実施、楽しく仕事のできる環境整備を行う ③ワークライフバランスを目指して「働き方改革市商八策」を推進する‥ 本校の勤務の在り方について独自性を活かしながら整理する(組織のスリム化･学校閉庁日の設定) ④、ＩＣＴ教育推進委員会を中心に、市商版ＧＩＧＡスクール・ＤＸ構想を作成し実現する ⑤職員朝礼の回数減に取り組み、生徒と関わる時間の創出に取り組む ⑥カリマネ委員会のメンバーをスクールリーダーとして、創造的・未来志向的マネジメントを実現する ⑦市商創造学を通じて、生徒の変容を感じられるカリキュラム開発を構築する	①本校におけるいじめ防止基本方針について、市教委と連携して見直しを行った。生徒の安全･安心を第１にした学年団や科コースの結束が、初期対応の要となっている。教育相談担当者会等を起点とし情報共有が図られている。今後はより即時的に共有・対応・予防に着手できる仕組みや、決めつけや浅い判断にならないよう、生徒の背景を知ろうとする教員の対話力等を一層高める必要がある。 ②先に声をかける挨拶を実施。楽しく仕事のできる環境改善を継続する。 ③教職員からの提案から業務改善アンケートを実施し、教職員からの意見を集めることができた。着手できる改善案から実施していく。 ④市商版ＧＩＧＡスクール・ＤＸ構想を作成でき、学校ホームページにもアップできた。 ⑤長期休業中の職員朝礼減に取り組んだ。グループウェアやGoogle チャット等の活用も研究する。 ⑥カリマネ委員記述のサポートシートが充実した。カリマネ委員会については、提案の場に加え、行事ごとの振り返りを実施したい。 ⑦学科コースが主体となって、創造的なカリキュラム開発に着手しており、それぞれ生徒が主体的に取り組めるような特徴ある活動に挑戦している。	B		B	自己評価を尊重する。
7・安全・防災教育	(1)交通安全指導の充実	①自転車安全指導の徹底 ②旭校区の諸団体との連携	安全･安心なまちづくり啓発広報パレードへの参加。(管理職・生徒) 市内巡回指導の実施及び毎月１回旭校区街頭指導の実施(生徒)旭地区の会(あさひのこどもを守る会/旭地区町内連合会/旭校区青少年育成協議会)等に参加し、安全･安心なまちづくりの啓発及び推進を図る(管理)	B		B	通学地区が広範囲であるが、校区地区の町内会や団体としっかり連携できている。
	(2)防災教育の充実	①系統的な年間計画の策定と実施 ②地域と連携した避難訓練の計画と実施	危機管理マニュアルの見直しと策定。ＡＥＤ研修の実施。安全教育研修会に参加し、防災に対する危機管理能力の向上を図る。避難所としての運営を地域住民と連携した訓練を実施予定(管理)	B		B	より当事者的予測のもとに訓練等を行う必要がある。
8・総合評価	(1)高知と社会に貢献し進学にも就職にも強い元気のある選ばれる商業高校	①体験入学参加者および受験者の増加 ②進路決定１００％実現 ③県内進学就職率の向上 ④学校が同じ方向を向くためのＰＤＣＡサイクルの実現	①体験入学参加者中学生811名、保護者・教員312名。10年連続志願者数１位、65校の中学校で高校説明会を実施(昨年度 57校)。 ②総括会議時点では99.6%。 ③国公立大学50名のうち県内国公立大学40名と昨年度32名より８名増、県内公務員合格者ものべ18名で９名増の結果。 ④次年度PDCAを若干簡素化。AARやOODA等の手法も取り入れる。	A		A	元気で楽しく全てに全力の生徒たちを見て、有意義な高校生活がおくれている。数字が証明している。